

～第7回法人合同研修報告（子どもの育ちと脳の発達）～

島田福祉会では常に職員の学習意欲と機会を数多く保障し、資質向上に努めてまいりましたが、その一環として、法人全体での職員教育の充実を図るため、平成26年より「法人合同研修」を実施しております。6月24日に行われた第7回は、長年大田区の保育に大きく貢献していらした佐藤佳代子先生にお話を伺いました。

2017年8月 増刊第16号

社会福祉法人 島田福祉会

発行人：藤田知恵

法人事務所 大田区大森北 3-3-5

電話・FAX 3763-1728・3763-1729

<http://www5.familie.ne.jp/~shfk136/>

E-Mail:bigforest1-3-6@neo.familie.ne.jp

今回の講師の佐藤佳代子先生は、当法人の大森北六丁目保育園が公立園だったときの初代園長をお務めになった方であり、また、「子どもの文化研究所」の講師として、法人職員が毎年のご指導いただいていると方ということもあり、職員達からは受講前から楽しみにしている声が多く聞かれました。その期待感もあってか、開始前は疲れた表情の職員もありましたが（この研修は「研修のために休日を減らすことなく学習の機会を提供してほしい」という職員側の希望に沿って、全員出勤日の行事・職員会の後に設定しています）、先生の実例を交えたわかりやすい解説や、エネルギー溢る語り口にすぐに引きつけられ、集中していく様子を感じられました。胎内にいるときから人生の終わりまで使っていく「脳」がめざましく発達する乳幼児期に、保護者と共にその育ちを見守るという大切な役割を負う私たちにとって、脳の発達に関する基礎知識をわかりやすくご指導いただいた今回の研修は、今後の個々の勤務や園全体の運営を大きく向上させてくれるものになると、受講者一同確信しています。



シナプスは増えたでしょうか？



脳の柔軟体操？

「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか？」

（★は島田、☆は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二）

- ★子ども達の発達の特性を機能的（ヒトとしての発達という観点）で理解しながら、おもてに見える行動の奥底にあるものを読み取れるようにしていく。（園長・主任・副主任）
- ★子どもは育てるのではなく、育てていくのを援助するという観点を学んだので、子どもと関わる際に意識できるようにしていきたいです。（栄養士・調理員）
- ★連絡帳やお迎えの時に、イヤイヤ期や困った行動について保護者から相談されることが多くなってきたので、その対処を含め、論理的に答えられるようにしたい。（保育士）
- ★自立の段階まで到達していない子に対し、やはり自立に向けての段階を踏んでいくことが必要であることを知り、道筋を踏まえた関わりをしていきたいと思いました。（保育士）
- ★年齢による、または個人差を加味しながら、子ども達の発達・成長を支え見守るためのヒントをいくつもいただきました。愛着→依存→反抗→自立のどこかでつまずきがあれば、前に戻ってやり直すことができると聞き、少しでも穴埋めできる心のケアをしたいと思います。佐藤先生に園の保護者に向けての講演を行っていただいたら、とても良い保護者への支援になると感じました。（保育士）
- ★ひとりひとり対応する、アメリカの里親制度のような保育のことを聞き、日々の保育を見直したいと思った。新しいことを取り入れるだけでなく、目の前にあることを丁寧にやっていく大切さに気づかされた。（保育士）
- ★脳は薄暗くなると眠るようにできているとのことだったので、午睡時の部屋の環境をもう一度見直し、改善できればと思いました。（保育士）
- ★やりたい遊びをやり通した子は集中力がつくという話があった。どのような保育活動をするかで変わってくるので、改めて自分を変える、考えるきっかけになったと思う。（園長・主任・副主任）
- ★ひとりひとりの愛着行動を見逃さずしっかりと受け止めていきたい。五感をたくさん使うような保育を心がけていきたい。毎日を笑顔で過ごし、子どもにとって心地よい保育者であろうと思います。（保育士）
- ★気になる保護者に対しては、変えようとするのが責めることになってしまうということ。保育園での昼間のお母さんになりながら、保護者と信頼関係を築いていきたいと思いました。（保育士）
- ★早寝早起きの必要性、十分に遊びを楽しむ必要性など、自分の中で再度かみ砕き、保護者へも伝えていきたい。（保育士）
- ★保護者を変えることが難しいならば、自分が子どもへの対応を変えなければならないと感じ、関わって行けたらと感じました。（保育士）
- ★3歳までは少人数の保育が大切だと聞き、クラスでも少人数での保育を心がけたいと思いました。しかしそのためには人手も必要だなと感じました。（保育士）
- ★保育のぶつ切り（集中力を高めるためにも）について考えさせられた。片付けのタイミングを考えていきたい。また、少人数保育をどんな場面で増やしていけるのか見直していきたい。（保育士）
- ★命の大切さ。まずは自分を大切に、周りの人も大切に、命すべてを大切にすることを育てていくために、子どもだけではなく今回の講義内容を保護者とも共有していけるように生かしていきたい。（保育士）
- ★子ども達が五感を十分に使い、佐藤先生がおっしゃっていた「ありとあらゆることにシナプスしたくなる」子どもの意欲が持てる保育活動や計画になるよう、クラスの指導案などを確認していきたいと思いました。（園長・主任・副主任）
- ★改めて子どもと関わる上で何が大切かを考えさせられたのは、戸外に出た際、保育士はどうしても「交通ルール」を重視してしまい、子どもに声をかけるのは、「前を向きましょう」「線の中に入って」などが多くなってしまいます。佐藤先生はそこを重視するのではなく、近隣の方に挨拶をしたりすることの方が大切だということでした。OJTの中でも見方を変えて、何が大切なのかを考え、伝えていきたいと思いました。（園長・主任・副主任）